



京都市文化観光資源保護財団

会報

No. 35



もくじ

目で見る京の文化財No.5 「京の門」	P 4
わたしと京の文化財(4) 行事の比較	郷土史家 松田 元 P 7
古い寺に住んで <12>	法界寺住職 岩城 秀雄 P 8
会員だより	P 9
北野天満宮の梅花祭	北野天満宮宮司 片桐 勤 P 10
みんなで守ろう京都の文化財	—京の図画・作文・詩コンクール— P 11
保護財団の活動	P 16

会報題字 理事長佐伯 勇
表紙 西本願寺唐門

会 報	
No. 35	58. 1. 1
編集・発行 財団 京都市文化観光資源保護財団 法人 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内 〒606 電話 075-752-0235 (代)	

謹賀新年

新年を迎え、皆様方の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。
平素は、当財団の運営にあたり格別のご支援、ご協力を賜わり厚く
お礼申し上げます。

本年も何卒より一層のご支援ご協力の程お願い申し上げます。

昭和58年元旦

財団法人京都市文化観光資源保護財団

会長(京都市長) **今川正彦**
理事長 **佐伯勇**

募金にご協力いただき ありがとうございました

寄付者芳名録(敬称略) 57.6.18~57.9.14

—法人及び団体の部—

- 〔特別会員〕
- ※京都中央信用金庫 <3,200万円>
 - ※安田多七株式会社 <2,150万円>
 - ※立石電機株式会社 <600万円>
 - ※日本新薬株式会社 <600万円>
 - ※株式会社ワコール <400万円>
 - ※清和商事株式会社 <353万円>
 - ※京阪バス株式会社 <100万円>
 - ※日本観光旅館連盟京都連絡会 <100万円>
 - ※次田株式会社 <52万円>
 - ※日本化薬株式会社 <51万円>
- 〔普通会員〕
- ※株式会社福寿園 <31万円>
 - ※厚木市立睦合中学校 <22万9千5百3拾円>
 - ※二条城清流園特別公開参観者有志一同 <20万1千6百8拾6円>
 - ※織悦株式会社 <20万円>
 - ※佐々浪ファマシー <14万円>

- ※株式会社西陣まいづる <14万円>
 - ※厚木市立厚木中学校 <13万6千7拾6円>
- 財団法人藪内燕庵 <10万円>
- 〔賛助員〕
- ※株式会社曾根商店 <9万3千円>
 - ※福寿染工株式会社 <7万円>
 - ※株式会社サカノシタ <6万円>
 - ※有限会社 錦 <6万円>
 - ※厚木市立林中学校 <5万7千9百3拾5円>
 - ※北畠株式会社 <5万5千円>
 - ※厚木市立玉川中学校 <2万4百5拾円>
- 個人の部—
- 〔特別会員〕
- ※狩郷 修 <52万1千円>
 - ※親谷 貞己 <17万円>
 - ※竹村 實 <16万円>
 - ※梅岡 大祐 <14万8千円>
 - ※北野 山人 <13万円>
 - ※丸山 末棹 <10万6千2百円>
 - 小柳 美代子 <10万円>
 - 田中 長兵衛 <10万円>
 - ※丹治 富蔵 <10万円>
- 〔普通会員〕
- ※水口 英子 <9万円>

- ※中島 次郎 <8万円>
 - ※天野 和夫 <7万円>
 - ※高橋 一男 <6万8千円>
 - ※三原 慶三郎 <6万6千円>
 - ※竹内 キミ子 <6万5千円>
 - ※水野 弘三 <6万円>
 - ※児玉 誠 <5万6千円>
 - ※奥崎 一郎 <5万6千円>
 - ※岡本 保止 <5万5千9百9拾9円>
 - ※山田 岳行 <5万円>
 - ※川崎 武雄 <5万円>
 - ※加藤 雅一 <4万6千円>
 - ※黒崎 永子 <4万1千6百9拾7円>
 - ※井上 嘉久 <4万円>
 - ※皆川 月華 <4万円>
 - ※別所 とみゑ <3万8千円>
 - ※神崎 順一 <3万7千円>
 - ※内田 和正 <3万6千円>
 - ※広岡 一 <3万5千円>
 - ※西村 弥五郎 <3万4千6百円>
 - ※友田 弘治 <3万1千円>
 - ※今井 憲一 <3万円>
 - ※弘津 友三郎 <2万5千円>
 - ※山田 省曹 <2万5千円>
 - ※辨官 弘晃 <2万3千円>
 - ※桐山 治一 <2万円>
 - ※中野 豊治 <2万円>
 - ※小林 吉之助 <2万円>
 - 山本 芳敬 <2万円>
 - ※植松 皆昌 <2万円>
- 〔賛助員〕
- ※矢野 芳子 <1万7千5百円>
 - ※西原 寿子 <1万7千円>
 - ※関崎 みのり <1万6千円>
 - ※吉本 明代 <1万4千8百円>
 - ※木原 滋 <1万4千円>
 - ※田村 彰敏 <1万4千円>
 - ※舟木 八重子 <1万3千円>
 - ※三宅 康雄 <1万3千円>
 - ※安田 孝夫 <1万3千円>
 - ※平野 和彦 <1万2千5百円>
 - ※大嶋 真治 <1万2千円>
 - ※盛田 准子 <1万1千円>
 - ※丹羽 英二 <1万1千円>
 - ※松嶋 芳子 <1万1千円>
- ※遠藤 伊之助 <1万円>
 - 久保 正一 <1万円>
 - 佐藤 昭三 <1万円>
 - ※山田 道雄 <9千6百6拾3円>
 - ※西岡 敏郎 <9千円>
 - ※星島 一枝 <7千円>
 - ※東森 治世 <7千円>
 - ※小川 幸次 <6千円>
 - ※澤村 彰 <6千円>
 - ※中野 美智子 <6千円>
 - ※萩原 泰子 <6千円>
 - ※横田 一志 <6千円>
 - ※重村 后紅 <5千円>
 - ※田井 四郎 <5千円>
 - 高橋 英二 <5千円>
 - ※本多 康俊 <5千円>
 - ※余田 善三郎 <5千円>
 - ※桜田 弥左衛門 <4千5百円>
 - ※杉田 実 <4千円>
 - ※鳴滝 紳二 <4千円>
 - ※森本 すて <4千円>
 - ※西村 敏子 <3千9百3拾4円>
 - ※山口 猛 <3千2百円>
 - 渡辺 きく <3千円>
 - ※宗 忠史 <3千円>
 - ※池内 俊夫 <3千円>
 - 川上 清 <3千円>
 - ※園 定義 <3千円>
 - ※徳留 ユミ <3千円>
 - ※佐村 伸一 <3千円>
 - ※星島 孝之 <3千円>
 - 川東 マツノ <2千円>
 - 寺井 正 <2千円>
 - ※林 三郎 <2千円>
 - ※北本 三重三郎 <2千円>
 - ※長沢 京子 <1千3百円>
 - ※古田 武久 <1千2百円>
 - 世良 秀子 <1千円>
 - 松尾 恒助 <1千円>
 - 山西 哲夫 <1千円>

※印は、追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額。なお、昭和57年9月14日以降の寄付者の方につきましては紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。

京の文化財をまもる5億円募金を達成するために
あなたのまわりの方々にも呼びかけて下さい

京の門



豊国神社 唐門(国宝) 安土桃山時代
四脚門で、伏見城の遺構とも伝えられ、暮股、門扉の彫刻、飾金具などが立派で桃山時代を代表する唐門といわれている。



西本願寺 唐門(国宝) 江戸時代初期
四脚門で豪華な彫刻と華麗な彩色がほどこされている。桃山時代の気風をよく伝える代表的な唐門で、別に日暮門とも呼ばれている。



◀東福寺 三門(国宝) 室町時代
二重門でわが国現存最古の三門である。楼上には極彩色の装飾画、釈迦三尊、十六羅漢を安置する。近年、解体修理が行われた。

門

門には、数多くの種類があって、その名称も建てられている位置、構造形態によって異なります。

建てられている位置から、表門、総門、中門、南大門などと称しますが、禅宗寺院にかぎっては中門にあたるものを三門、南大門を総門ともいいます。又、建築様式からみると控柱の数から四脚門、八脚門、重層門で屋根が二重のものを二重門、下層の屋根がないものを楼門、唐破風のある唐門があるほか、一対の金剛力士像を両脇に安置する仁王門などいろいろ特徴のある門があります。

今回、その中から代表的な門をご紹介します。



知恩院 三門(重文) 江戸時代初期
二重門でわが国最大の三門といわれている。楼上には、極彩色の装飾画、釈迦如来、十六羅漢を安置する。



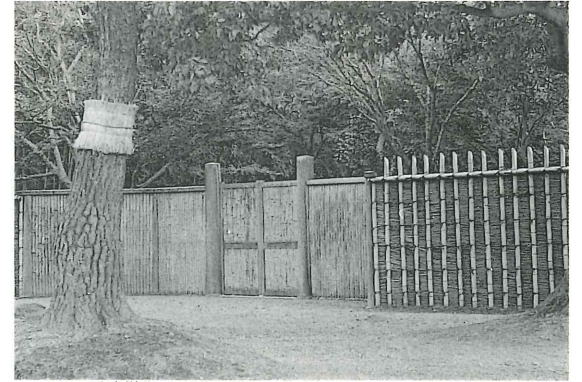
北野天満宮 中門(重文) 安土桃山時代
四脚門で三光門ともいう。特異な様式で、東西の廻廊とつながっている。



高台寺 表門(重文) 安土桃山時代
薬医門で当寺と少しはなれたところに位置する。伏見城から移建したものといわれ、彫刻、金具類に桃山時代の豪壮な様式を残している。



八坂神社 西楼門(重文) 室町時代
朱塗りで左右に大臣像を安置した楼門である。屋根が切妻造で左右に翼廊が見られることは、他の楼門と異なっている。



桂離宮 御成門 明治時代
二重門で柱垣と呼ばれる竹垣とつながっている。御所や離宮に多くもちいられるつくりである。



御所 建礼門 江戸時代後期
四脚門で内裏の正門にあたり、内部の承明門を通して紫宸殿と一直線にあたる位置にある。本来は、天皇のみの通用門であったといわれる。



二条城 東大手門(重文) 江戸時代初期
櫓門で二条城の代表的な門として一般に親しまれている。門扉や柱に鉄板を打ちつけ、武者窓が設けられそのつくりは、堅固な城郭門となっている。



教王護国寺(東寺)蓮花門(国宝)鎌倉時代
京都における最古の門といわれる。境内西側に位置するこの門は、当寺八脚門のうち最も構造手法がすぐれているといわれる。



妙心寺 勅使門(重文)安土桃山時代
四脚門で総門の西に位置する。特に彫刻も少なく桃山時代としては簡素なつくりの門である。



電光院(大徳寺塔頭)兜門(重文)江戸時代初期
屋根が唐破風で普通の平唐門と変わらないが、中央の部分が兜の形となっているところに特徴がある。



峰定寺 仁王門(重文)室町時代
洛北 花背に位置するこの仁王門は、普通八脚門と同様のものであるが入母屋造で屋根が高いため雄壮な感じとなっている。



平安神宮 応天門 明治時代
平安京の応天門を模した二層入母屋造の楼門である。



奥瀬家 表門 江戸時代初期
京都市内では珍しい茅葺の長屋門で、江戸時代御殿医として奉仕した当家の表門である。

わたしと京の文化財(4)

行事の比較

郷土史家
松田 元



文化財といわれる広範な対象のうち、私は特に年中行事に心を惹かれるのです。それは、他の絵画彫刻や建築の類、音楽演劇等と違って特に芸術的価値が高いとか、名人上手の存在が対象でなく、長い年月、主として信仰などの目的から継承されてきた狭い範囲内の人々の慣習で、毎年くり返されて行なわれているうちに目的にふさわしい行動が、独特の様式に洗練されて固定した、その土地だけの催しという点に深い興味を覚えるからです。

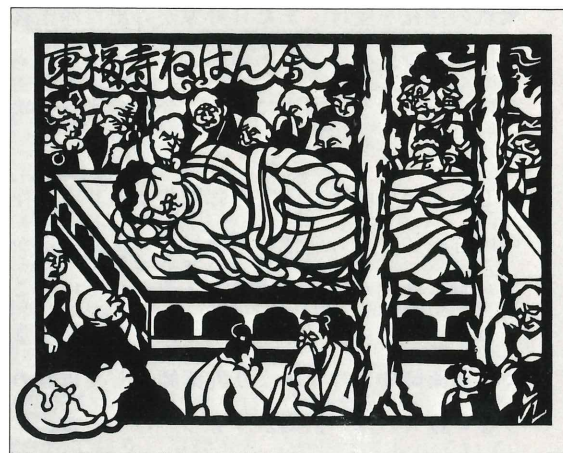
京都は千有余年の都であり、ちょうどその頃から人々は安定した都市生活を曲りなりに始めています。庶民も上に倣って氏神さまを持ち、お祭りを始めました。現在のお祭がこの時始まった訳ではありませんが、祇園祭をはじめ多くの祭の萌芽が生まれ、江戸時代には都に倣う風



潮が全国に拡がりました。また京の都だけを範囲として考えても百を超す祭が生まれ、夫々に独特な様式を固定し、他に誇っています。それらの一つ一つが特異であり、同じ目的の行事が、同じ日に同じ筋書きで進められていても、目立つ全く異なった特徴が感じられるのです。節分などは特に競争的になりますが、それらを巡拝してもそれぞれに楽しい珍しさを年毎に感じます。大文字五山送り火についても言えることですが、これらを比較し研究してみると興は尽きないのです。

一月には方々にお弓の神事があります。この様式が神社によって違うのです。

二月は節分、三月は各寺院の涅槃図を見て廻るのもおもしろく、大きさでは東福寺、泉涌寺、絵の上空に切利天から急いで降りてくる麻耶夫人が描かれているもの(真如堂・嵯峨清凉寺)もあります。真如堂の海北友賢の涅槃図には海中の鯛や蛸まで描かれていました。こうした発見も実に楽しいものです。とかく「寒かっただけや」「混雑はもうごめん」等とあきらめる人が多いのですが、突然予備知識なしに見ると失望する場合が多く、見られるはずの見どころを逃してほぞを咬むこともあるのです。



(京都新聞紙上に掲載)

(文中挿入画は筆者自筆)



古い寺に住んで 〈12〉

日野薬師 法界寺住職

岩城 秀雄

日野に生まれ、日野に育ち、今も日野に住む私は、こよなく日野を愛する一人である。

いわゆる都の巽に位置するこのあたりは、まことに静寂そのもの、東に音羽山、醍醐山となだらかな山なみで続き、少し開けた平地を宇治川に注ぐ山科川がや、西の方を流れる。車で走れば三十分で市の中心に達することが出来、大規模な工場や事業所もなく、かつ又日常生活にこれといった不便もない理想境であった。しかし今は宅地造成が急速に寺をとりまいて。心ある人から「困ったことですね」と言われると、自分が悪いことをしたように曖昧な返事をして頭を下げるのが常である。



「頂礼頂礼」のかけ声こだまする法界寺操踊り。毎年1月14日修正会の結願にあたっておこなわれる。



ほう かい じ 寺 (京都市伏見区日野)

東光山と号し、日野薬師ともいう。永承6年(1051)日野資業氏によって創建されたと伝えられる。かつては、多くの堂塔がたちならび壯観であったが、応仁の乱により焼失し当時の建造物としては阿弥陀堂が今日に伝えられる。



鎌倉前期の阿弥陀堂建築の貴重な遺構である国宝阿弥陀堂。

法界寺は藤原氏の一門日野家が建てた諸々の仏堂が中心となり、やがて寺としての形態を整え、一時は相当栄えたが応仁の乱、その他の兵火で多数の堂塔伽藍を失った。明治初年の排仏棄釈の洗礼を受け、また日野家から出た浄土真宗開山親鸞誕生ゆかりの地として、明治の初め境内の約半分を本願寺に譲り、今日のような狭隘な境域となった。

しかし藤原時代の国宝阿弥陀堂があり定朝作の阿弥陀仏、さらに他に例を見ない土壁に描かれた飛天壁画が創建当時のまま遺されていることは誠に有難い。又寺の本堂である重文薬師堂や本尊薬師如来は古来より乳薬師として母乳の少ない婦人の厚い信仰が今もつづいている。

壇信徒の少ない古寺の信仰を今に生かし、多

数の文化財を日夜保護することはなかなか骨の折れることではあるが、この寺に責任を持つ以上なんとかして守りぬかねばの信念を以って日夜み仏に願い、自らを律している日々である。

会員だより



高麗の郷を歩く

加藤 雅一(34)

京都市伏見区深草

京都は、1994年に、平安京建都1200年を迎えるわけであるが、平安京の建設に秦氏をはじめとする渡来系氏族の果たした大きな役割、業績を忘れることはできない。

その渡来系氏族の一つに、高句麗系の高麗氏がある。京都府にも山城町に高麗寺跡や、狛田、上狛、下狛などの地名や駅名が残っている。

本稿では、57年10月に訪ねた関東の高麗氏ゆかりの史跡について少しふれてみたい。

(注 高麗は高句麗のことで、統一新羅後に建国された高麗のことではない。)

東京池袋駅から西武秩父線で約1時間半で、高麗駅に到着する。ここは、明治29年まで高麗郷と呼ばれ、戦前までは高麗村であった埼玉県入間郡日高町の玄関口である。

駅前には、韓国の村々でよく見かける「天下大將軍、地下女將軍」と書かれたチャンスン(守護神)が建てられており、一瞬、韓国の一村に来たかのような錯覚に浸ることができた。駅からめざす高麗神社までは、近年観光的によく整備されており、道標もしっかり建てられていて



西武高麗駅前のチャンスン(守護神)村の入口をあらわす役目もある(筆者撮影)

道に迷う心配はない。軽いハイキングコースを約4キロ歩く。途中に見えかくれする高麗川の清流も美しい。こうして高麗神社に着いた。高麗神社は、この地に高句麗から渡来した人々が集められて「高麗郷」が置かれた時(716年)に指導者であった高麗王若光を祀る社である。高麗神社の宮司は代々若光の直系の子孫によって務められており、現在は59代目。境内には高麗家住宅(重要文化財)もあり、いにしえが偲ばれた。また、高麗神社から5~6分の所には、聖天院という寺があり、境内には、多重塔の若光の墓がある。

私の渡来文化の足跡を訪ねる旅は、まだ緒についたばかりであるが、高麗神社は、15、6年も前から一度訪ねて見たいと思っていた所で、今般ようやく念願が叶った訳である。道筋に咲くコスモスの花がとても清々しく印象に残った楽しい秋の一日であった。



北野天満宮 の梅花祭

北野天満宮 宮司
片 桐 勤

皆さんよく御承知のように、京都では毎月二十一日は弘法さん、毎月二十五日は天神さんといわれ、ゆかりのある縁日として、一般に親しまれております。軒をつらねて並ぶ露店に、大人も子供も何ということなく、心ひかれるものがあります。又よく耳にすることですが、弘法さんが雨ですと天神さんは晴れるといわれる言葉に、一般庶民の生活の中にしみこんだ何かがあるようです。

二十五日と天神さんとの関係は、今から千百年余り前、仁明天皇承和十二年六月二十五日(845年)菅公はお生まれになり、醍醐天皇延喜三年二月二十五日(903年)おなくなりになり、御誕生と御命日が奇しくも同じ二十五日であるゆかりによります。毎月二十五日の中でも、一月の初天神、二月の梅花祭、6月の御誕辰祭、十二月の終い天神が盛大に行なわれる。中でも、御命日の梅花祭は古くから非常に大切にかつ丁寧に祭典を行なってきたものであります。

現在古式を伝える西の京神人の子孫で結ばれている七保会の人々により、蒸米を大小二つのお鉢にもりあげた梅花御供という特別のお供物、紙立(こおたて)といって玄米を小さい紙袋状のものに入れ、紅白の梅の小枝をさしたものの四十二個と三十三個、御幣、白齋、黒齋の御神酒などをお供えます。また祭典に奉仕する神職達も菜種の花を冠にかざして参進するゆかしさは

ばい か さい □ 梅 花 祭

北野天満宮の梅花祭は、平安時代後期に始まったと伝えられ古くは、神饌に菜種の花を挿して供えたことから菜種の御供と称した。

毎年2月25日、境内に咲きほこる梅花のなか、古式を伝える神事と野点の茶会が盛大に行なわれる。

御命日を大切に行う日本人の心情がよくうかがわれます。

この日、咲きそめし境内の梅花の下で、梅花祭の協賛として、古い神縁による上七軒の芸妓衆が奉仕する野点の茶会が行なわれ、ひときわなごやかな風情が、境内に満ち満ちております。こよなく梅を愛された御祭神菅公の御命日を偲ぶ、梅花祭という優雅な名称に、人々は菅公に対する親しみを、より一層心に深くきざみこまれることと思います。



みんなで守ろう京都の文化財

— 京の文化財 図画・作文・詩コンクールより —

京都市文化財保護条例施行を記念して、京都市が京都市内の小学生を対象に「京の文化財」をテーマにした図画・作文・詩を募集しましたところ、およそ370点にのぼる作品が寄せられました。

これらは、いずれも子どもたちが京都の文化財に対する自分の気持ちを、素直に表現した素晴らしいものであります。今回、これら多くの作品の中からほんの一部をみなさんにご紹介します。

みんなの御所ぼくらの御所

京都市立中立小学校6年

窪田 健一

御所のへいが、
白い五本線のあるへいが、
遠くまで、
真すぐのびている。
その上の黒い屋根に日があたり、
白く光っている。
松の出ているところだけ、松の影が見える。
へいの下の水路の水は澄み切って、
「ぴりっ」といい気持ち。
じやりの広い道は、
広すぎて人の姿が、まばら。
はとがあちこちに群をつくって遊んでいる。

観光客の人にたずねてみた

「御所をどう思いますか。」

「古い建物が落ちついて、

そのうえ静かで美しい所です。」

と答えが返ってきた。

この御所は天皇のおられた所だ。

今も美しく整備されている。

ししん殿のへいの周りは、



「毘沙門堂」

京都市立鏡山小学校6年 北野一樹

千四百メートルあるという。
体育の時間に先生や友だちと走ると、
速い人で七分、おそい人で十分位で走れる。
走った後、体を休めさせてくれる芝生も、
やわらかだ。
梅林の下には、たんぽぽも一面にさくし、
白つめぐさも深ぶかしている。
ぼくは、その白つめぐさの中へ寝ころんで、
本を読んだこともある。
また出水公園で野球をすることもある。

考えてみれば御所は京都のほこり、

ぼくらの自然公園だ。

わたしのみたお茶

京都市立小川小学校 3年
千 倫子

わたしの家では、おじいさんとおとうさんが、お茶を教えてください。

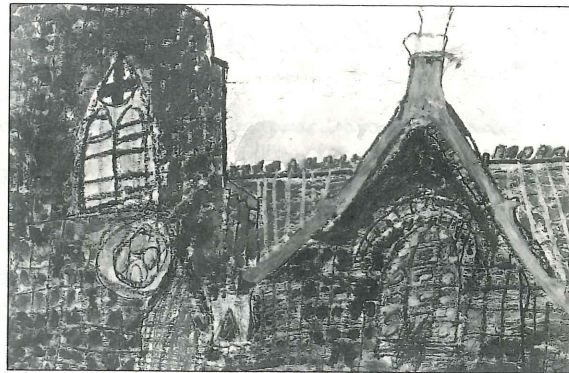
お茶のけいこの日には、朝早くから、お茶のべん強をしているおにいさんたちが、古い深い井戸から水をくんで、おゆをわかし、すみごやからすみを取ってきて、すみに火をつけて、お茶をたてる火の用意をします。また、けいこ場になる茶室のそうじをしたり。庭のそうじをしたりして、けいこのはじまるまで、いっしょうけんめいに仕事をしています。

きせつのよいときは、楽しそうにしていることもあります。暑いときや、とくにさむい冬の日は、とつてもたいへんなことで、「お茶のべん強もきびしいんだなあ。」と思います。とくに、おじいさんの教える日は、それがとてもきびしくて、みんなこわい顔をしています。

おでしさんたちが来る前に、おじいさん、お父さんをはじめ先生やおにいさんたち、事む所のおじさんたちも、そろってお茶を飲みます。お茶を飲みながら、おじいさんがいろいろ教えます。お茶を飲む時はあいさつをしてお茶わんを少し回して飲むのです。飲みおわれば、べつのおにいさんが来てそれを持って帰ります。

わたしも前は、おばあさん、お母さんのそばでいっしょに飲んだのですが、学校があるので今はあまり出ていません。

お茶室をつかわない時はその中に何一つ物が置いてありません。けれども、あそんではいけないのです。お茶をする時にはその中へいるものだけをおくのです。たとえば、とこの間にか



「平安女学院」

京都市立中立小学校2年 岸本洋明

け物やきれいな花を入れた花入れをかざります。そして、たたみの上にはお茶をたてる道具をおくのです。道具はきせつや時と場所によっていろいろかわります。お茶を飲む茶わん、お茶のこなを入れるなつめ、こなをすくう茶しゃく、お茶をかきまぜる茶せんなどたくさんあります。

それから、もう一つ、お茶のことで思い出したのは、冬の庭のことです。それまでの間は庭にはこけが生えて緑がいっぱいですが、さむくなると、その上にかれた松葉をしいて、さむさからこけを守ります。

「庭もわたしたちといっしょで、オーバーを着るのかなあ。」と思いました。

お正月をすぎると、毎年その上に雪がつもって、下にあるこけの緑と松葉の茶色と雪の白さが、とても、とてもきれいです。そのような日のお茶は、とてもおいしく気持ちがしゃんとするような気がします。

妙 法

京都教育大附属小学校 3年
山田 裕子

わたしのおばあちゃんの家は、山田ですがや

ごうは、大治と言います。松ヶ崎の人は、「山田さん」とは、言わずに、「大治」とよばはります。そして毎年大文字の日に妙法の妙という字の女のところに火をつけに行きます。つける所は、毎年かわっていますが、火どこは、二つです。八月になると、まつの木のわり木を町ないの人がもってきてくれます。それをよくかわかして十六日の朝、パパやいとこのとおる兄ちゃんたちがあせをかきながら、おのでわらはります。夕方になると、とおる兄ちゃんたちが、たばねて、山へもって上らはります。きれいに火がつくようにつみ上げて、雨がふってもだいじょうぶなようにビニールをかぶせて、おいてきます。夜7時20分ごろになると、「妙法」とかいたはんてんをきて、あぶらを持って山に登ります。8

時10分になると、山とはんたいがわのほけんきよくから、ライトがてらされて、火をつけなさいという合図をします。それを見たらすぐに、つみあげた木にあぶらをそそいで、火をつけます。ひろ子やらが、見ていると、きれいな妙という字もつけにいった人は、虫にさされたり、火のそばで、「あつい、あつい」といってあせをながしながら、つけているのです。八時半には火がきえますが、みんなが山から帰ってきはるのは、九時をすぎます。なぜかという、火事がおこらないように、あとかたづけをしてからです。きれいな大文字もたくさんの人たちのくろうで、つけられるのです。わたしは、いろいろあるおくり火の中で妙という字が一番きれいだと思います。

京の年中行事 (1月～4月)

1月 (睦月)

とき	行 事	とき	行 事
1 日 (土・祝)	歳旦祭 市内各神社 ○新年を祝う祭典が各神社で行なわれる	1～7 日 (土祝～金)	清水寺 修正会 清水寺 ○修正会法要(1日午前8時～9時・2日～6日午前9時～10時)
1～3 日 (土祝～月)	六波羅蜜寺皇服茶 六波羅蜜寺 ○皇服茶授与(午前8時～午後5時)	2～4 日 (日～火)	神前書初め 北野天満宮 ○筆初め祭(2日午前10時) ○元始祭(3日午前10時)狂言奉納(午後1時)
1～3 日 (土祝～月)	若水祭 日向大神宮 ○祭典(元旦午前3時)	3 日 (月)	かるた始め 八坂神社 ○古式かるた競技(午後1時)
1～3 日 (土祝～月)	新年祈禱会 狸谷不動院 ○初護摩祈禱会(元旦午前6時～午後5時)	5 日 (水)	八千枚大護摩供 赤山禪院 ○八千枚大護摩供(午前8時)
1～3 日 (土祝～月)	毘沙門堂初寅祭 毘沙門堂 ○大祭(終日)	7 日 (金)	白馬妻寛神事 上賀茂神社 ○神事(午前10時)
1～3 日 (土祝～月)	鞍馬寺初寅大祭 鞍馬寺 ○前夜祭 ○初寅大祭(2日午前3時) ○後日祭	8～12 日 (土～水)	初ゑびす 恵美須神社 ○餅つき 神事・湯立神楽(8日午後2時) ○宝恵かご社参(8・9日午前10時) ○十日ゑびす祭典(10日午後2時) ○残り福祭(11日午後8時) ○撤福祭(12日午後8時)
1～4 日 (土祝～火)	御神楽と蹴鞠始め 下鴨神社 ○初詣 御神楽の奉納(1日～3日午前9時～午後4時) ○蹴鞠始め(4日午後2時)		

とき	行	事
	○あびす囃子、神楽奉納（毎日）	
9～16日 （日～日）	御正忌報恩講 ○法要（午前10時・午後2時・午後6時） （9日午後のみ・16日午前のみ）	西本願寺
10日 （月）	初金比羅 ○清浄砂の祈祷（午前10時）	安井金比羅宮
12日 （水）	奉射祭 ○本殿祭（午後2時）	伏見稲荷大社
14日 （金）	御棚会神事 ○神事（午後2時）	上賀茂神社
14日 （金）	法界寺裸踊り（修正会） ○裸踊り（午後7時～9時）	法界寺
15日 （土・祝）	伏見稲荷大社成年祭 ○本殿祭（午後1時） ○古式による元服式（午後2時）	伏見稲荷大社
15日 （土・祝）	柳のお加持と弓引初め ○柳のお加持（午前8時～午後4時1時間毎）	三十三間堂

2月（如月）

とき	行	事
2・3日 （水・木）	八坂神社節分祭 ○舞踊奉納と豆まき（各日とも午後1時・3時） ○蓬萊の福鬼神事 ○伝統芸能団今様奉納（3日午前11時）	八坂神社
2・3日 （水・木）	須賀神社節分祭 ○追儺招福豆まき祭（2日午後4時）	須賀神社
2・3日 （水・木）	聖護院節分会 ○大般若経転読法要（2日） ○追儺式（3日午後1時） ○採灯大護摩供（3日午後3時）	聖護院
2・3日 （水・木）	おかめ節分会 ○前夜祭（2日午後から） ○当日祭（3日午前10時30分） ○古式厄除行事（午後3時） ○豆撒行事 ○木遣音頭奉納	千本釈迦堂
2～4日 （水～金）	吉田神社節分祭 ○節分前日祭（2日午前8時） ○追儺式（2日午後7時） ○節分大祭（3日午前8時） ○火炉祭お札焼き（3日午後11時） ○節分後日祭（4日午前9時）	吉田神社
2～4日 （水～金）	壬生寺節分会 ○節分会開白式（2日午前8時） ○壬生狂言「節分」（2・3日午後1時～8時） 1日8回上演 ○お練り供養（2日午後1時） ○大護摩焚き（2日午後2時） ○厄除祈禱会と秘法「火伏せ」（2・3日終日）	壬生寺

とき	行	事
	○弓引き初め（午前8時～午後4時）	
15日 （土・祝）	御粥祭 ○祭典（午前10時） ○成人祭	下鴨神社
15日 （土・祝）	泉涌寺七福神めぐり ○福神の特別開扉（日出～日没）	泉涌寺
15日 （土・祝）	御粥神事 ○祭典（午前10時） ○成人祭	上賀茂神社
16日 （日）	歩射神事 ○大的式弓射ひきめ神事（午前10時）	上賀茂神社
20日 （木）	湯立神楽 ○湯立神楽（午後2時）	城南宮
21日 （金）	初弘法	東寺
25日 （火）	初天神	北野天満宮

とき	行	事
	○結願法要（4日午後2時）	
3日 （木）	伏見稲荷大社節分祭 ○本殿祭（午前9時） ○豆まき行事（午前10時・午前11時30分・午後1時・午後2時）	伏見稲荷大社
3日 （木）	北野天満宮節分祭 ○節分祭典（午前10時） ○追儺狂言（午後2時）	北野天満宮
3日 （木）	追儺式鬼法楽 ○鬼おどり（午後3時）	廬山寺
3日 （木）	狸谷節分祈願祭 ○厄除開運大護摩祈禱と星祭祈禱 ○追儺豆まき式（午前10時30分・午後1時30分・午後2時30分）	狸谷不動院
3日 （木）	平安神宮節分祭 ○節分祭（午前10時） ○狂言（正午） ○大雛の儀（午後2時） ○豆まきの行事（午後3時） ○節分大火焚祭（午後6時）	平安神宮
3日 （木）	開運厄除大祭 ○大神楽の奉納（終日）	日向大神宮
3日 （木）	六波羅蜜寺節分会 ○開運厄除柴燈大護摩供（午後12時30分） ○大福豆まき（午後2時30分・午後3時30分） ○六齋念仏（午後3時）	六波羅蜜寺
8日 （火）	針供養 ○針供養法要（午後1時）	法輪寺

とき	行	事
11日 （金・祝）	初午大祭 ○祭典（午前8時）	伏見稲荷大社
17日 （木）	燃灯祭 ○祭典（午後2時）	上賀茂神社
23日 （水）	五大力尊仁王会 ○大法要（午前9時） ○五大力餅コンクール（午後1時）	醍醐寺

3月（弥生）

とき	行	事
10日 （木）	芸能上達祈願祭 ○祈願祭 ○狂言奉納（午後1時）	法輪寺
14～16日 （月～水）	東福寺涅槃会 ○涅槃会（午前9時～午後4時）	東福寺
14～16日 （月～水）	泉涌寺涅槃会 ○涅槃会一般公開（午前9時～午後4時30分） ○涅槃会法要（15日午前10時～午後3時30分）	泉涌寺
15～31日 （火～木）	真如堂涅槃会法要と涅槃会公開 ○涅槃会法要（15日午前10時） ○涅槃会公開（15日～31日午前9時～午後4時）	真如堂

4月（卯月）

とき	行	事
1～18日 （金～月）	平安神宮観桜茶会 ○観桜茶会（午前9時～午後4時） ○奉祝神賑神事（16日午後）	平安神宮
2日 （土）	松尾大社例祭 ○祭典（午前10時） ○狂言・謡曲奉納	松尾大社
8日 （金）	花まつり ○白象かざり（午前11時）	清涼寺
8日 （金）	釈尊降誕花まつり ○抹茶野点（午前10時～午後3時） ○法要（午後1時）	霊山観音
8日 （金）	花まつり ○法要（午前10時）	知恩院
8～10日 （金～日）	観桜方除大祭 ○観桜方除大祭（午前10時）	城南宮
9・10・17日 （土・日・日）	嵯峨大念仏狂言 ○狂言（午後1時30分より）	清涼寺
10日 （日）	太閤花見行列 ○行列（午後1時～3時30分）	醍醐寺
10日 （日）	平野神社桜祭 ○神幸祭（午後1時） ○献花（8～10日）	平野神社
10日 （日）	伏見稲荷大社産業祭 ○産業祭（午後1時）	伏見稲荷大社

とき	行	事
23日 （水）	五大力尊法要 ○大般若経の転読（午前10時30分） ○山伏の柱源護摩供	積善院準提院
24日 （木）	さんやれ祭 ○参拝（午前11時頃より）	上賀茂神社
25日 （金）	梅花祭 ○祭典（午前10時）	北野天満宮

とき	行	事
15日 （火）	涅槃会とお松明式、嵯峨大念仏狂言 ○護摩木厄除祈願（10時・15時） ○大念仏狂言（午後2時～4時） ○涅槃会法要（午後6時30分） ○お松明式（午後8時）	清涼寺
18～24日 （金～木）	春の彼岸会	市内各寺院
22日 （火）	千本釈迦念仏 ○釈迦念仏遺教経奉唱（午後2時）	千本釈迦堂
30日 （水）	はねず踊り ○踊り奉納（正午）	随心院

とき	行	事
12日 （火）	水口播種祭 ○祭典（午前11時）	伏見稲荷大社
15日 （金）	中西祭（豊醸感謝祭） ○祭典（午前11時）	松尾大社
17日 （日）	良縁祈願さくら祭 ○祭典（午前8時）	地主神社
17日 （日）	稲荷祭神幸祭 ○神幸祭（午前11時） ○御本社発輿（午後2時）	伏見稲荷大社
17日 （日）	吉野太夫花供養 ○島原太夫道中（光悦寺午前11時出発） ○吉野太夫墓前祭（正午）	常照寺
19日 （火）	お見拭い大法要 ○お身拭い大法要（午後2時）	清涼寺
24日 （日）	松尾大社神幸祭 ○6基の神輿の遷座（正午） ○行列（午後1時）	松尾大社
21～29日 （木～金祝）	壬生大念仏狂言 ○狂言（午後1時～5時30分）－有料－	壬生寺
29日 （金・祝）	曲水の宴 ○祭典（午後2時） ○神苑楽水苑特別無料公開（午前8時50分～午後4時30分）	城南宮

第35回文化財特別参観のご案内

“壬 生 寺”

今回は、長い歴史のなかで庶民に親しまれてきた壬生寺を訪ね、地藏信仰や壬生大念仏狂言に関する数々の文化財を鑑賞いたします。

- 回参観日時 昭和58年3月5日(土)
午後2時(参観時間約2時間)
- 回対象者 財団募金協力者(会員)とその家族
- 回申込方法 住所・氏名・年令を記入し返信用切手60円分を同封の上、封書によりお申し込み下さい。
- 回申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都都会館内
京都市文化観光資源保護財団宛
- 回参加費不用
- ※お問い合わせは、財団事務局まで。なお、参加ご希望が多い場合、制限することがあります。



やすらい踊

- 今宮やすらい(北区紫野上野町)
4月10日(日)正午頃、2組に分れた行列が光念寺を出発し、今宮神社の各氏子町内を巡行する。途中、町角の祭壇、祠、御神酒の貼紙がある氏子の家の前で踊り、午後2時30分頃2組が合流し今宮神社で踊りを奉納する。
- 川上やすらい(北区西賀茂川上町)
4月10日(日)正午頃、準備が整うと氏神の川上大神宮に参拝し踊りを奉納した後、氏子町内を巡行し途中、町はずれから今宮疫神社に向って遙拝し踊りを奉納する。
- 玄武やすらい(北区紫野雲林院町)
4月10日(日)午前9時すぎ準備が整うと玄武神社を出発。午前中は、3組の鬼がそれぞれ踊りを希望する氏子の家々をまわり、午後は定められた経路を巡行し、玄武神社に帰る。

□上賀茂やすらい(北区上賀茂岡本町・梅ヶ辻町)

5月15日(日)正午頃、岡本町のやすらい堂を出発。巡行は、大田神社を経て上賀茂神社に向う。一の鳥居で今宮神社に向って遙拝し踊り、ついで楼門内にて踊りを奉納する。



編集後記

- ◆あけましておめでとうございます。
本年も、何卒よろしく願い申し上げます。
事務局では本年も、この会報が皆様に一層親しんでいただける内容になるようがんばりたいと思っています。皆様からのご意見、ご希望をどしどしお寄せ下さい。
- ◆今回は、特に京都市内の社寺を中心に主な門をとりあげ紹介しました。門には、それぞれ特徴や由緒があります。一度、ゆっくり見比べられてはいかがでしょうか。
- ◆昨年11月1日より京都市役所、区役所・支所をはじめ京都市内の各金融機関、旅館などおよそ500ヵ所に募金箱を設置し、広く市民をはじめ観光客の方々に對し募金の呼びかけをくりひろげています。ご支援下さい。



みんなで文化財を

火災からまもろう!

文化財防火運動

1月23日から1月29日まで

京都市消防局

— 差別をなくして明るい社会をつくろう —